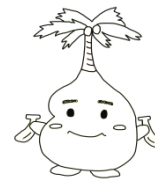


大

王

や

し



発行所 台中日本人学校(台中市日僑学校) 電話

ホームページ <http://tjs.ehosting.com.tw/>

e-mail tjs97@ms18.hinet.net

FAX

校長室から

校長 栗田 友季子

丑年

今年のお正月は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い各地で緊

急事態宣言が出されたり、数年ぶりの大寒波もあつたりと、穏やかなお正月だったとはとても言えない大変な状況だったようです。1日も早く、この状況が改善することを祈るばかりです。

さて、日本ではこのような年明けになってしまいましたが、台湾では穏やかに令和3年がスタートしました。今年が丑年ですので、3学期の始業式のあいさつの中で、子どもたちに丑年について以下のような話をしました。



〈3学期始業式の話〉

干支は12あります。今年の干支は「^{うし}丑」です。丑は、12支の2番目の干支です。なぜ牛(丑)が2番目かという、次のような話があります。

神様が干支を決めるときに、朝、門に12番までに入ったものを干支にするという競争をさせました。牛は自分が歩くのが遅いことを知っていたので、前の晩のまだ暗いうちに家を出発しました。ネズミは牛の背中に乗り一緒に門までやってきたのですが、ネズミは門の手前で牛から飛び降りて1番になり、牛は2番になりました。

牛は自分のことをよく知っていて、12支に入るために他の動物よりも早く家を出発したのです。1番にはなりませんでしたが、干支に入ることができました。

丑年は、先を急がず目の前を確実に進めることが大切だと言われています。そして、それが将来の成功につながっていくともいわれています。今年も、新型コロナウイルスの蔓延で、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、牛のように地道に突き進むことで新たな発展へと繋げる年にしていきたいと思います。

みなさんは、3学期の「目標」や「やるべきこと」が決まっていると思います。その決めたことを確実に進めて、成功へとつなげてください。

令和3年も新型コロナウイルスの影響がまだまだ続きそうですが、慌てずにしっかり準備をして、着実に教育活動を進めていきたいと思ひます。

本年も、本校教育活動へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

始業式・児童生徒代表の言葉

※小学部代表 6年藤原未弓さん 「2学期を振り返って」(概要)

校外学習では、自分たちで課題を解決しまとめるという目標を達成できた。しかし、友達や先生の力を借りて達成した部分もあった。友達の大切さを感じ、もっと人を助けたいという気持ちをもつことができた。3学期は、友達を助けることや率先して行動することを目標に頑張っていきたい。



※中学部代表 3年山本朝陽さん 「3学期」(概要)

ついに台中校生活最後の3学期が来てしまった。クラスメートはほとんど日本にかえってオンラインでしか話すことができないが、これも貴重な体験だと前向きにとらえていきたい。

3年生の3学期は、進学のことや勉強面でとても大変だと思う。ましてや今年は特別な状況でもっと大変だが、高校進学を見据えながら残り少ない台中校生活を楽しみたいと思う。

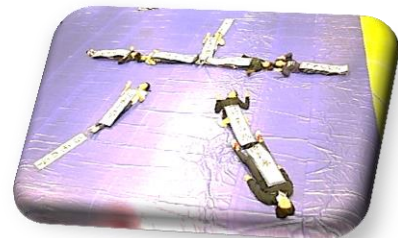


書初め展

今年も校内書き初めが7日に行われ、全校生が真剣な面持ちで作品制作に取り組みました。真剣に取り組みながらも、子どもたちは、日本の伝統文化を楽しんでいるように感じました。



出来上がった作品を胸に、人文字をつかって、ハイ！パチリ！



さて、どれが一番上手に書けたかな！



職員室前の廊下に全作品を掲示しました。

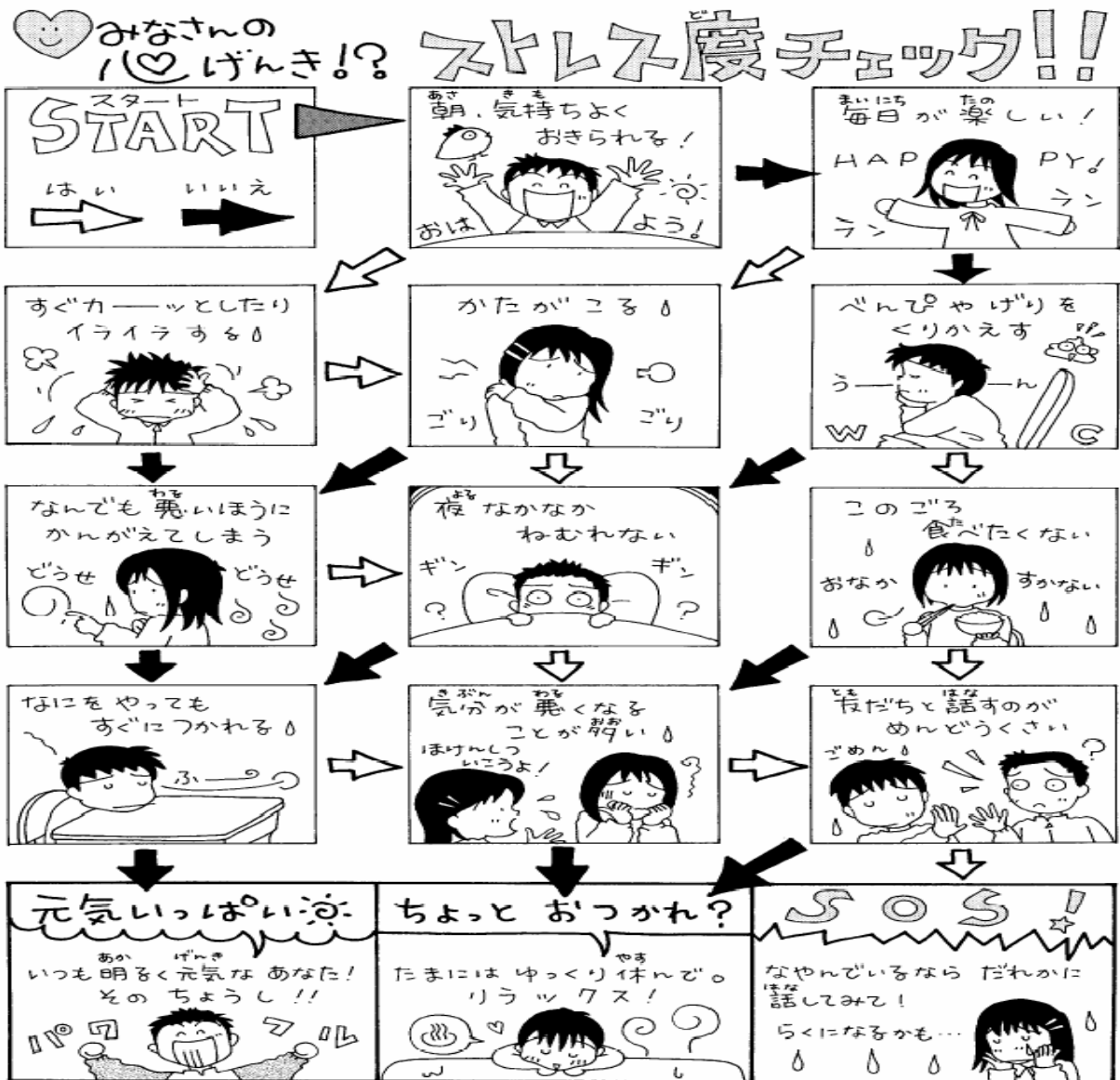


保健だより

台中日本人学校
保健室

こんげつ ほけんもくひょう
今月の保健目標

こころ けんこう かんが
心の健康について考えよう。



悩んでいることや困っていることがあったら、お家の方や先生や友だちに話してみ
てください。話すだけでも、楽になることがあります。保健室では林先生がいつでも
待っています。



ペンリレー

「果物と私」

須田俊之

私は果物が大好きで台湾に来てからたくさんの果物を食べてきました。温暖な気候で育まれた果物はどれも美味しく、いつも幸せな気持ちにさせてくれます。台湾は果物の楽園だと思っています。中でも私にとって思い入れのある果物を紹介させていただきます。

「出会いの果物・ライチ」

1つ目はライチです。日本では冷凍されたものが中華料理屋さんなどで食べられますが、台湾で初めて生のライチを食べました。プルっとした食感とみずみずしさに、やはりその地でしか食べられない美味しさがあるのだと思いました。ちょうど8月の検疫期間中にホテルで出してくれたものだったので、台湾に招かれているんだなと勝手に感じていました。旬は夏の前だと聞いたので、今度は旬のライチを食べたいです。



「感謝の果物・文旦」

大きな文旦と小さな文旦、皆さんはどちらが好きですか？大きいものは実がサクサクしていてさっぱりしていて、小さいものは実がプルプルで甘さがぎゅっと詰まっています。私は大きな文旦が好きです。校長先生は小さな文旦がお好みです。日本では高知県での生産が多く、ザボンやボンタンと呼ばれています。「ボンタンアメ」も有名ですね。そしてこの文旦は、台湾では中秋節になると果物屋さんの店頭には山盛りで積まれます。皮に顔を書いたり、皮をうまく切って帽子のようにしたり楽しみ方があり、感謝の気持ちを伝える贈り物にもなっています。私もお世話になっている方にお渡ししたり、頂いたりしました。台湾文化の仲間入りをさせてもらえたようで嬉しかったです。感謝の気持ちを伝え合う素敵な風習を担う果物です。

「親近感の湧く果物・釈迦頭」

釈迦頭は何と言っても見た目がいいです。そして名前がいい。お釈迦様の頭。そして私の頭。類は友を呼ぶといいますが、これも導かれているのかもしれない。釈迦頭はシュガーアップルとも呼ばれる果物です。熟す前は実が締まっていて皮も硬いですが、熟すと手で実を割ることができます。種の周りの白い果肉がジャリジャリした食感でと～っても甘いです。大きな実ではないけれど、ひとりでは食べきれないあたりが、誰かと一緒に食べる喜びを教えてください。機が熟すまで待ち、皆でつまみながら美味しさを分かち合う。外見だけでなく、中身もお釈迦様のような果物です。



「台中校の果物・バナナとドラゴンフルーツ」

台中校の校内ではバナナとドラゴンフルーツが植えられています。バナナの花を初めて見た時は感動と驚きがありました。バナナの実が木になっているところも実際に見たことはなかったので、台湾に来たんだなと実感したのを覚えています。葉っぱも大きく、触ってみるとしっかりとしたつくりで、料理の保存や器として使われる理由がわかりました。日本で食べるバナナより少し短い濃厚な味が美味しいです。ドラゴンフルーツはサボテ



ン科の植物で、トゲトゲした枝の先にとってもきれいな花が咲き、そこに果実が実ります。寒さに弱い以外はどんな場所でも育つ植物で、台中市内のお家の玄関にも巻き付かせて育てているのを見たことがあります。皮は赤く、果肉は赤や白のものが台湾では食べられます。果物は美味しく食べるだけでなく、その果物がどう育っているのか、またどんな花を咲かせるのかに興味をもつことも面白いです。

台湾には果物屋さんが町中にたくさんあって、いつも旬の季節の果物が置いてあります。季節によって前面に置かれる果物が変わることが楽しいです。いつでもどこでも美味しいものが食べられることは、今の時代の良さではあると思います。ですが、自然の流れに合わせて、その地のその時々美味しいものを食べることもやはり良いものだと思います。台湾に来てまだ1年目ですが、これからの台湾での生活を楽しんでいきたいと思っています。

